



「夢と希望のある町づくりへ 前進の年へ」

「写真の町」 東川町長 松岡 市郎

輝かしい新春をご家族の皆さまとともに迎えに出来ましたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年は3月11日の東日本大震災により大きな被害が発生し、さらに原子力発電所の事故も重なって、国内はパニック状態となりましたが、被災住民及び国等の関係者のご尽力により一日も早い復興をお祈り申し上げます。

被災地の皆さまが一生懸命に頑張っている姿に、私たちも刺激を受け、東川の日本一素晴らしい環境を生かし、最高と評価いただけるような町

づくりを着実に皆さまとともに進めたいと思っております。

今年は、次代を担う子供たちが「夢と希望」を持ち、逞（たくま）しく育つ教育環境の整備、東川小学校の改築に着手します。住民の皆さまが有している匠の技や知恵を積極的に活用したものを開拓し、20年、平成26年度を目標として完成を目指します。

老人保健センターの内部改修、定住人口拡大のための宅地造成を予定しております。ノカンでは、コープさつぽろが中心となって大雪旭岳源水のボトリング工場新設、道

草館横には、アウトドア活動商品が全国展開するモンベルが進出、アジアを中心とした日本語学校開設に向けて寮などの整備、高齢者が安心して暮らすことができる居場所整備、食文化を楽しむことができるお店の開店などが計画されており、雇用の確保とにぎわいが一層進むことが期待されます。

このほか、5月下旬全国の小さな自治体で構成している「小さくても輝く自治体フォーラム」、6月にピンホールカメラの全国大会の開催も予定されています。旭岳クロス

カントリースキーコースは、国のトレーニングセンターの拠点施設として指定を受けられるよう強く運動を進め、オリンピックでメダル獲得できるほどの強豪選手が本町のスキー合宿で育つことに期待したいと思います。

最高の町づくりは、受け身の姿勢ではなく、一人ひとりが持っている力を発揮し、最高のサービスを提供するといふ積極的かつ共益の視点で取り組む姿勢にならなければ得られるものではありません。

「選択と集中」の時代がやってくると思います。未来に「夢と希望のある町づくり」にまい進したいと考えていますのでご協力とご支援をお願いします。

結びに、皆さまのご多幸をご祈念申し上げます。



謹賀新年

東川町議会議長 浜辺 啓

二〇一二年（平成二十四年）の年が町民の皆さまにとって、そしてわが町にとって最良の年でありますことを祈念致します。

昨年の年頭に「日々平穏であることがいかに幸せであるか！」ということを書かせていただきましたが、そのことを実感させられた年でありました。それを教訓に防災に対する備えを改めて強く感じたところでもあります。

さて本年も「小さくてもキラリと光る」町づくりを目指して頑張つてまいります。

「少年老い易く、学、成り難し」一寸の光陰、軽んずべからずです。今日出来ることは今日やりましょう。しかし町づくりは「一朝一夕」には出来ません。日々の積み重ねです。「継続は力なり」と申します。「写真の町」を宣言して、早二十八年になります。

今、いろいろなところを訪ねてみて、いかに「ひがしかわ」の名が浸透しているかを実感させられます。

私たちの町が元気なのは、活動しているからなのです。

町民一人ひとりが種々なことに参加し、協力し合っているからだと思います。

昨年選挙があり新しい人も加わりました。

議会のあり方も少しずつ変化していき、その先頭に立って議会のあるべき姿を目指します。

昨年は未曾有の災害に見舞われましたが、そこから見え

てきた日本人の気質を再認識し町づくりに生かしていくことも必要ですし、誇りを持つてことに当たっていただきたいと思います。

住民福祉を考える時、従来の方法を踏襲していたのではニーズに答えられません。

「若者が夢を持てる」町づくり、そこには多少のリスクも伴います。しかしそれを怖がっていたのでは将来は見えてきません。

私たち一人ひとりが知恵を出し合い、汗を流して頑張ろうではありませんか。

今年も皆さんにとってより良い年でありますことを願って新年の挨拶とさせていただきます。